● 平成１８年度第１３回　下山地域会議　会議録 ●

【日　時】平成１９年２月２６日（月）　１９：００～２１：１５
【場　所】下山支所２階会議室
【出席者】委員１５名（欠席１名）
　　事務局（支所長　副支所長　加藤　酒井　川合）
【次第】１　開会
　　２　会長あいさつ
　　３　会議録署名委員指名
　　４　前回会議録の承認
　　５　協議事項
　　・平成１９年わくわく事業について
　　６　ワークショップ
　　（１）ワークショップのふりかえり
　　（２）下山地域自治と地域会議のルールづくり
　　（３）平成１９年度の目標設定について
　　７　閉会

【内　容】
１　会長あいさつ

２　会議録署名委員氏名
　山田委員を指名

３　前回会議録の承認
　豊田市森づくり条例・構想素案に関する意見交換ということで、森林課職員と意見交換を行いました。引き続き、ワークショップとしてコミュニティ会議との合同会議の合意点と課題の整理、課題解決に向けての提言、そして下山地域自治のあり方についての検討を行いました。
　　（全委員承認）

４　協議事項
　平成１９年度わくわく事業について
（事務局）平成１９年度わくわく事業についての募集期間は４月２日から５月７日までにしたいと思います。住民への周知については、３月支所だよりにて周知していきます。審査会は、５月１９日土曜日午前９時から下山交流館２階多目的ホールで実施をします。補助額は１事業に付き１００万円を限度にしたいと思いますが、補助限度額については、皆さんで協議をしていただきたいと思います。
（委員）わくわく事業を２年間行ってきましたので、状況はわかっていると思います。意見がないようですので、補助限度額の上限を１００万円にしたいと思います。

５　ワークショップ
（ファシリテーター）今までは１年かけて地域課題をとりまとめてきました。今後は、具体的な活動に向けた体制づくりにシフトしていきます。今日は１９年度が終わった時点でここまで取り組んでおきたいという具体的な目標を立てたいと思います。そして、それに向けてのルールについて話し合いを行いたいと思います。
（事務局）地域づくりに向けた地域会議・コミュニティ会議・支所長間のルール案が配られているかと思います。これは地域会議や合同会議等で皆さんの合意を得ているところでありますが、当分の間、地域会議・コミュニティ会議の連携の調整役を支所長が担っていくということであります。地域会議は、地域課題の解決に向けた具体的な長期ビジョンや実践活動計画をまとめ支所長に提案します。支所長は提案を受けて、必要においてコミュニティ会議等と実践活動に向けて調査の提案をしていきます。また必要に応じて市長に提言をし、支所長が調整役を担っていくということであります。地域会議とコミュニティ会議は対等の立場にたち相互信頼関係を保ちながら、下山の地域づくりに取り組むということであります。このことについて意見がありましたらお願いします。
（委員）地域課題の解決とありますが、地域の課題というのは誰がいつどのように決め、課題がはっきりしなければ次につながっていきません。そこが一つ問題であると思います。
（委員）具体的な長期的なビジョンとありますが、具体的な長期ビジョンとは何かと思います。地域会議でまとめた３つの課題でいいのか。それがしっかりしなければ、実践計画を地域会議が立てて、それをコミュニティ会議と共通認識を図っていけるのかと思います。
（事務局）地域課題と長期ビジョンについては、３つの課題を前提としています。それを踏まえて役割分担をどうするかということです。地域会議はシンクタンク的な役割、実践活動はコミュニティ会議ということです。その理念を踏襲していけばいいと思います。
（委員）支所長さんの立場を明確にしていただきました。地域会議が提言したものを支所長が受け止めて、それを本庁なりコミュニティ会議に振り分けるということでした。その図式しかないと思います。
（ファシリテーター）ルール（案）については、今までの議論を含めて支所で修正をお願いしたいと思います。次に来年度の目標づくりに移りたいと思います。

３つのグループでグループワーク

（ファシリテーター）では発表に移りたいと思います。
（委員）若者のリーダーを作るということについて検討をしたのですが、自主的にリーダーを生み出せるかといいますと、なかなか難しい部分があると思います。コミュニティ会議の中に青年や女性のリーダー的なポジションを用意してしまう。それをコミュニティ会議なりで選出していただいて、ある程度各地区にリーダー的なポジションを作って、その中で２次的に活動をしていただけるような動きをつくれたらいいというような話になりました。
（委員）高齢者の問題ですが、漫然とした目標では前に進みません。そこには一つの核が必要であります。その核にトヨタ研究開発施設を持ってきたらと考えます。それをもってくれば、当然、住宅も建設され住民も増え、住民が増えれば当然食料も必要になり、それに付随したアクセスも多分に必要になると思います。そこで、トヨタ研究開発施設を核にした地域づくりを行えばと考えます。
（委員）女性がもっと働きやすい暮しやすい地域・学童保育の充実ということでありますが、学童保育を充実させるということが、最終的な目標でありますが、１９年度の目標は、まずアンケート

を実施しないといけないと思います。それは、実際に学童保育を必要としている人がどれくらいいるのかを調べなければいけなせん。保育園の母の会とか小・中学校のＰＴＡを通じてどの程度需要があるのかを調査します。そして学童保育を運営している地域が、実際にどういう運営をしているのか調べたいと思います。
（ファシリテーター）目標を定め実践しながらルールのほうにフィードバックして考えるとか、仕組みを作っていくことがいいと思います。各グループの発表を聞き、意見があればお願いします。
（委員）先日視察に行ったとき、視察先の同じ場所でＮＰＯが子育て支援を行っていました。学童保育の選択肢としてＮＰＯもあるのかなと思います。
（委員）今の話は、ＮＰＯなどの能力のたけた人、リーダーがいないと活動できません。それも一つのリーダーの創出ですね。
（委員）学童保育という核がだんだん発展していけば、やがてはトヨタの住宅開発にも弾みがついてくるような気がします。
（委員）高齢者の関係ですが、シルバー人材センターでいろいろな事業を行っています。シルバー人材センターに１２０名の会員がいますのでそこら辺を活用してもいいと思います。
（委員）組織さえ今しっかりつくっておけば、学童保育の問題だとか、高齢者の問題だと全てにいい形がつくれていくのではないかと思います。
（ファシリテーター）今日は、来年度の目標をつくるということが、狙いでありました。これからは皆さんが情報を集めたり、仕組みをつくって行くことが来年度の目標になると思います。今日はこれで終わりたいと思います。